

(様式5)

調査報告書

| | |
|---------|-------------------------|
| 訪問調査日 | 平成 20年 10月 7日 |
| 調査実施の時間 | 開始 10時 00分 ~ 終了 15時 00分 |

| | |
|-------------------|--------------------------|
| 訪問先事業所名 (都道府県) | グループホーム かわかみ (鹿児島県) |
|-------------------|--------------------------|

外部評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----|
| I. 理念に基づく運営 | 11 |
| 1. 理念の共有 | 2 |
| 2. 地域との支えあい | 1 |
| 3. 理念を实践するための制度の理解と活用 | 3 |
| 4. 理念を实践するための体制 | 3 |
| 5. 人材の育成と支援 | 2 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 2 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 1 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 1 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 6 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 2 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 11 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 9 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 2 |
| 合計 | 30 |

| | | |
|----------|--------------|--------|
| 評価調査員の氏名 | 氏名 | 山下 賀子 |
| | 氏名 | 新納 祐子 |
| 事業所側対応者 | 職名 | 管理者 |
| | 氏名 | 秋野 由加里 |
| | ヒアリングを行った職員数 | 3名 |

| |
|--|
| <p>※記入方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。 ●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。 <p>※項目番号について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●外部評価項目は30項目です。 ○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。 ○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。 <p>※用語について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある) ●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。 ●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。 ●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。 <p>関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。</p> |
|--|

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年10月7日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|------------------------------------|-------|-------------|
| 事業所番号 | 鹿児島県指定 第4670104365号 | | |
| 法人名 | 有限会社 ベストケアライフ | | |
| 事業所名 | グループホーム かわかみ | | |
| 所在地 | 鹿児島市川上町1854-1 (電話) 099-243-7735 | | |
| 評価機関名 | NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構 | | |
| 所在地 | 鹿児島市星ヶ峯4-2-6 | | |
| 訪問調査日 | 平成20年10月7日 | 評価確定日 | 平成20年11月25日 |

【情報提供票より】 (平成 20年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | |
|-------|-------------------------------|
| 開設年月日 | 昭和・平成 17年 6月 12日 |
| ユニット数 | 2 ユニット 利用定員数計 18 人 |
| 職員数 | 22 人 常勤 6人, 非常勤 16人, 常勤換算 13人 |

(2) 建物概要

| | |
|------|--------------|
| 建物構造 | 木造平屋 造り |
| | 1階建ての ~ 1階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|---------------|----------------|---------------|---|
| 家賃(平均月額) | 30000/45000 円 | その他の経費(月額) | 12000/18000 円 | |
| 敷金 | 有(円) (無) | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(円) (無) | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり | | 1,000 円 | |

(4) 利用者の概要 (H20年 9月 1日現在)

| | | | | | |
|-------|----------|------|-----|----|-----|
| 利用者人数 | 18名 | 男性 | 1名 | 女性 | 17名 |
| 要介護1 | 11名 | 要介護2 | 4名 | | |
| 要介護3 | 1名 | 要介護4 | 2名 | | |
| 要介護5 | 名 | 要支援2 | | | |
| 年齢 | 平均 83.3歳 | 最低 | 60歳 | 最高 | 96歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-------------------------|
| 協力医療機関名 | 医療法人 博香会 久保クリニック、 小田原歯科 |
|---------|-------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地に建てられた当ホームは、障害者施設や保育園も近くにあり、地域とのふれあいの中で生活しやすい環境にあり、協力医療機関との連携も確立されている。ホームの中庭は入居者が自由に散歩したり、ウッドデッキで作られたベランダでくつろげるように配慮されている。毎日遊学の時間を設け、職員は入居者の得意分野を引き出し五感に働きかけるレクリエーション等の工夫を行っている。他グループホームとの交流を密にして職員の研鑽を行い、チームワークでゆったりとしたケアを心がけ、サービスの質の向上に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 他グループホームとの交流を図り、研修や勉強会に職員が交代で参加して、研修の充実に向けた取組みがなされ、改善されている。 |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) |
| | 管理者は評価のねらいや意義を職員に説明し、自己評価が自らのケアを振り返る契機となるように、全職員で取り組んでいる。 |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 会議では今までの行事内容や入居者の状況報告を行っていたが、出席者に実際の活動状況をみてもらいながら意見やアドバイスを受けて、サービスの質の向上に努める等、ステップアップした取組みの工夫がみられる。 |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | 家族の来訪時に、意見や要望等何でも話してもらえるよう声かけを行っている。各居室に連絡帳を準備し、細かい要望も聞くよう工夫している。出された意見は速やかに検討して運営に反映させている。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 町内会に加入し、地域の夏祭りや運動会に参加したり、近隣の保育園や福祉施設との交流のほか、中学生の福祉体験学習の受け入れを行う等、積極的に地域との交流を図っている。 |

2. 評価結果（詳細）

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|---|--|----------------------|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 開設時の理念「みんなでたすけあい、安心のある暮らし」を、地域密着型サービスを含めた理念について検討の段階である。 | ○ | これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を目指した理念の見直しが望まれる。 |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念は室内に掲示すると共に、毎朝の朝礼で唱和し理念の共有を図り、日々のケアサービスに反映されるよう取り組んでいる。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 町内会に加入し、地域の夏祭りや運動会に参加したり、近隣の保育園や福祉施設との交流の他、中学生の福祉体験学習の受け入れを行う等、積極的に地域との交流を図っている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 管理者は評価のねらいや意義を職員に説明し全職員で自己評価に取り組み、ケアに関する部分の勉強会を行い、サービスの質の確保に向けての取り組みを行っている。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 今年は新たな取り組みとして、会議の他にも行事の状況や日々の活動状況をみてもらい、アドバイスを受けながら、サービスの質の向上に努めるよう取り組んでいる。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|---|----------------------|----------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 運営推進会議以外にも定期的に地域包括支援センターを回り、行事案内をしたり、入居に関する相談等を行っている。市の介護相談員も受け入れ、入居者のサービスの質の向上に向けた取り組みがなされている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 面会時に入居者の暮らしぶりや様子を報告している。ホーム便りでの近況報告や担当の職員が個々の状況を毎月報告している。預かり金は、毎月現在高を報告し、領収書は発生している分について3ヶ月毎に送付している。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族の来訪時に意見や要望等何でも話してもらうよう声かけを行っている。また、連絡帳を用いて細かい要望も聞くよう工夫している。出された意見は速やかに検討して運営に反映させている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 各ユニット間の職員の異動を行う場合は協力連携ができるようにしたり、新入職時は、ダメージを最小にとどめるよう配慮している。家族にも異動の報告を行っている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修は職員が交代で参加し伝達講習を行っている。内部研修は毎月の職員会議で、認知症や安全管理等のテーマを決め、グループワークで研修を行っている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡協議会に加入し、研修には交代で参加している。グループホーム間交流を月1回のペースで行い、他グループホームの勉強会やカンファレンスに職員が交代で参加し、職員同士の相互的向上の場となっている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|---|---|----------------------|----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居希望者には、本人や家族の意向を聞きながら説明を行っている。ホームを見学したり、お茶や食事を一緒にとってもらっている。希望に応じて体験入居を行いながら、安心して入居できるよう支援している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員は傾聴を心がけ、信頼関係を築く事を大切にしている。オヤツ作りや行事食作り・梅干し漬け・花の水栽培・野菜の収穫をするなど支えあう関係を築いている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日頃よりコミュニケーションを図ることを重視し、思いや意向の把握に努めている。遊学の時間を利用して個人の趣味や得意分野を活かす取り組みも行っている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人・家族の意向や希望を聞いたり、職員の気づきや意見を参考にしながら、個々に応じた細やかな介護計画を作成している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 毎月モニタリングを行い定期的見直しをしている。各ユニット間で週2回意見交換や介護の見直し等検討している。入居者の状態変化時の随時見直しも行っている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|--|----------------------|---|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 家族と話し合いながら、本人の希望する買い物や通院支援を行ったり、自宅迄の外出に付き添うなど柔軟に対応している。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居者及び家族が希望するかかりつけ医となっており、通院介助も行っている。協力医療機関との連携も確立され、往診や電話相談、医療処置が受けられる体制にある。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化や終末期に向けての支援のあり方については、ホームとしての方針を検討中である。 | ○ | 重度化した場合や終末期のあり方について、関係者全体で話し合いを持ち、対応指針を定め、職員間で方針の共有をする取り組みが期待される。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 管理者は、入居時や職員会議の中でも個人情報保護に関する説明を行っている。入所者のプライバシー確保の重要性に留意し、日々のケアの中で声かけや対応の仕方について職員に指導している。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 健康状態やその日の気分を大切に、食事や就寝時間をずらしたり、外出の支援をする等、本人のペースに合わせて柔軟に対応している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|------|---|--|----------------------|----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 個々のレベルに応じて、調理から片付けまで一緒に行っている。誕生日の方には本人の希望を重視した献立の工夫や、食事形態の工夫をしている。職員はゆったりした雰囲気ですぐに食事が楽しめるよう配慮している。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 毎朝、健康状態を把握し、希望にそって安心して入浴できるようにしている。入居者の状況に応じて工夫し、気分よく入浴できるよう支援している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 入居者の生活歴や趣味を考慮しながら、家事・草取り・書道・読書・ジグソーパズル・毛糸の指編み・美顔マッサージなどの楽しみ事、季節行事のない月はレクリエーション大会を行いながら、気晴らしの支援をしている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | ホーム周辺の散歩やドライブ・花見・ソーメン流し等の外食などに出かけるなど、外出の機会を多く作っている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 職員の見守りと気配りを重視し、日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 夜間の火災を想定した訓練を含め年2回実施している。町内会にも協力してもらえよう声かけを行っている。避難場所も検討している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|------|---|--|----------------------|----------------------------------|
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 職員は、栄養士の助言を受け、栄養バランスに配慮しながら食事摂取量の記入や水分量を把握し、個々に応じた支援を行っている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 廊下やリビングにはソファが置かれ、くつろげる和室も用意されている。また中庭にはベンチも用意され、広々とした廊下に入居者の作品も飾られ明るい雰囲気である。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には冷蔵庫やテレビ・仏壇・扇風機・花・観葉植物・写真などが持ち込まれ、個性的で本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。 | | |

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。